「みどりの食料システム戦略」の実現に向けて

「みどりの食料システム戦略」とは、環境負荷低減を目指す、農林水産省の政策方針です。そのなかで、2050年までに目指す姿の一つとして「化学肥料の使用量を30％低減」を掲げています。

ＪＡ全農ちばは、「みどりの食料システム戦略」の実現に向け、次のように取り組んでいます。

これまでの取り組み

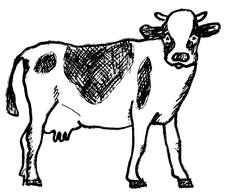
土づくり資材として、鶏糞等の堆肥のほか、鶏糞焼灰入り肥料や、堆肥と普通肥料がひとつになった有機肥料「エコレット」等、国内地域資源（豚ぷん堆肥等）を使った有機肥料の取り扱いをすすめており、施肥コストの削減に取り組んでまいりました。

みどりの食料システム戦略
（農林水産省ホームページ内）
詳細はこちら
→

2023年11月から牛ふん堆肥を使った混合堆肥複合肥料の出荷を開始しています

千葉県耕畜連携肥料

ＪＡグループ千葉オリジナル肥料「ちばの恵み ぎゅ～っと８８５」



- 保証成分　チッ素８、リン酸８、カリ５
- 容量　20kg
- 用途　主に園芸品目向け（汎用）
- 形状　粒状のため、機械施肥による省力散布が可能
- 特長　県産の牛ふん堆肥を40％使用した混合堆肥複合肥料

詳しい使い方は、最寄りのＪＡまでお問い合わせください

牛ふんを使うことのメリット

牛ふん堆肥は、鶏ふんや豚ぷん堆肥よりも繊維質が多く、土づくりに役立ちます。「ちばの恵み ぎゅ～っと８８５」は牛ふん堆肥と化成肥料を一粒化しているので、化成肥料よりもゆっくりと長く効き、連用することで地力および土壌の物理性向上と、土壌中の微生物層の改善が期待できます。また、製造時に火力乾燥しているため雑草種子や病原菌などの混入の心配もありません。

畜産酪農家の抱える課題の解決へ

「ちばの恵み ぎゅ～っと８８５」の商品化に向けた良質な牛ふん堆肥の確保のため、畜産酪農家を巡回し、課題となっていた牛ふん処理の改善をすすめ、肥料原料とすることで副産物収入につなげました。

ＪＡグループ千葉が目指す社会への貢献

- **国内資源の活用による供給の安定化**
  肥料原料の大半を輸入している我が国において、堆肥などの国内資源を有効活用することで、国際情勢に左右されにくい肥料の安定供給に貢献します。
- **地域循環型農業の構築と化学肥料の削減**
  耕畜連携による千葉県産牛ふん堆肥の活用により資源循環型農業を構築し、価格の安定と環境負荷軽減につなげます。

JA全農ちば